1949年９月17日第三種郵便物認可　毎月10日発行　第648号（通巻1152号）　定価１部40円

創立1880年
YMCA
東京YMCA
2007 7/8 月号
発行所　東京キリスト教青年会　発行人　新井廣和
135-0016　東京都江東区東陽2-2-20　電話　03-3615-5562
URL http://tokyo.ymca.or.jp

東京ＹＭＣＡの使命
東京ＹＭＣＡは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

明日のリーダー育てるCIT
…若い時から現場でトレーニング…

野尻で1992年にスタート

東京ＹＭＣＡはキャンプや定例野外グループ活動などを通して、子どもたちの成長に寄与するために、青少年がリーダーシップを育む場として、様々なトレーニングプログラムを実践している。

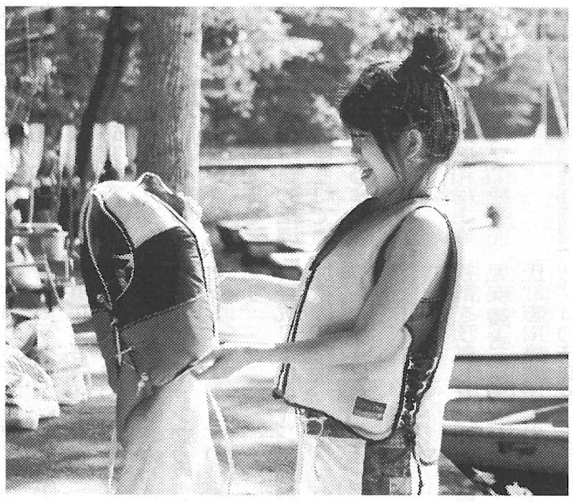
今回は代表的なプログラムとして、高校2・3年生を対象に行う「野尻ＣＩＴキャンプ」に焦点をあて、長年、野外教育の現場に携わってきた飯忍学院長にＣＩＴの経緯と展望を語ってもらった。

学校法人東京ＹＭＣＡ学院　学院長　飯　忍

東京ＹＭＣＡの夏季キャンプの一つに、「野尻小学生キャンプ」というのがある。申し込み受付開始後、小一時間で70名の定員がいっぱいになる人気のキャンプであり、今夏で第12回を数える。

その「野尻小学生キャンプ」第8回（2003年7月26日～8月1日）の生活の様子が、約40分間のＤＶＤに収められている。8時間近い原映像を編集したものだが、その映像の一部に、この年に行われた「野尻ＣＩＴキャンプ」についての紹介がある。

野尻ＣＩＴキャンプとは、「将来（野尻）キャンプリーダーとして活動したい」と願う高校2、3年生のためのキャンププログラムである。映像の中で、このキャンプに参加した7名のＣＩＴメンバーが、水に陸に活動する様は、ある種の爽やかささえ感じさせてくれる。



ここでは、このＣＩＴキャンプのプロセスを追いながら、東京ＹＭＣＡの青少年活動について考えたい。

ＣＩＴの概要

ＣＩＴとはCounselor In Trainingの略である。まだ正規のリーダーではないが、それを目指してトレーニング中である人を意味する。米国のあるキャンプでは、以下の募集要項によっている。

□対象：15歳～17歳でＹＭＣＡキャンプに参加経験のある人
□期間：13日間
□定員：2セッション各5名前後
□役割など：カウンセラーインストレーニングは、実際のキャンプに参加しながら自身がプログラムを体験し、子どもたちが安全に楽しく過ごせるように配慮した関わりを持ちながらリーダーと協力してキャンプを作ります。キャンプ中はスタッフがミーティングの時間を持ち、フィードバックをしたり、リーダーに必要な参加者の理解、安全、野外活動スキルトレーニングを実施します。将来ＹＭＣＡのリーダーになりたい人、リーダーシップを学びたい人用のトレーニングキャンプです。

◇　◇

何時ごろからＣＩＴが始まったかは定かではない。キャンプの名著Camping and Character（1929：Association Press）はCounselor-In-Trainingにふれているので、少なくともそれ以前にはあったと考えられる。

野尻のＣＩＴ

現行の野尻ＣＩＴキャンプが始まったのは、1999年のことである。8月20日～26日にもたれた。

おそらく、それ以前にも同じような試みがされたであろうことは想像に難くない。野尻以外では、1973年に山手ブランチ（当時）でLeader In Trainingという言葉を用いたし、同ブランチの高校生グループが、1975年前後にリーダーの指導を受けながら、小学生低学年キャンプや定例野外活動で子どもたちと関わった。各ブランチでも同様のことがあっただろう。

1998年のボランティアスタッフ会でリーダートレーニングが話題となり、（特に現地での）時間を増やすことが話された。

担当主事の会で協議され、具体化された一つが「若い時代から関わる」ＣＩＴである。

担当リーダーも、ディレクターとの関係を密にしながら、1999年の宮谷直幸氏（当時中学校教諭）、和田京子氏（当時幼稚園教諭）をはじめとして、以後年に小島浩美氏、西山千香子氏、矢沢貞夫氏、三宅うら氏等社会人や年長のリーダーがあたり、2003年にはキャンプスタッフとして塩澤一洋氏が関わった。

しかし、当初参加者は、希望を耳にする割には大きくならなかった。1999年には2名、2000年は1名、2001年には中止となった。期間等を変えて2002年より再開し、同年6名、2003年7名、2004年5名、2005年7名、2006年4名であった。ここに参加したリーダーとなっている。

高校2～3年生は、一方でキャンパーである。野尻ＣＩＴキャンプではなくて、他の「中高生キャンプ」にメンバーとして参加する者ももちろんいる。そこからリーダーになったメンバーがいるのも興味深い。

（2面へ）

細かな視点に驚き

ボランティアリーダー　網盛さや香

私が野尻ＣＩＴキャンプに参加したのは、今から4年前の夏。

ある日、グループ毎の子どもたちの様子をシェアするカウンセラー会を見学する機会がありました。カウンセラーが「Aくんの体調が悪く、小食気味です」と報告。ディレクターの「初日のお弁当はどのくらい食べていましたか?」との質問に、「おにぎり2個と、おかずを残さず食べていました」と答えるリーダー。

私は、リーダーがこんなにも子どもたちのことを細かく見ていたことに、衝撃を受けました。

漠然と抱いていたリーダーのイメージでしたが、リアルな視点を初めて感じ、リーダーの子どもたちに対する思いに触れたような気がしました。

◇ある沖縄出身の友人と食事をしていた時のことです。話をしているうちに、外の喧騒とは別に、いつしかその友人がかもし出す、何とも言えない優しい雰囲気にふと故郷を想像しました（東京生まれの私は、東京が故郷なのですが…）。友人が持つその「温かさ」が周囲の人々を和ませ、私もとても優しい気持ちになりました。

◇今日になって、日本の余りの優しさに触れた時、少しの驚きと大きな感激を抱き、記憶に刻み込みました。

◇現在、様々な理由で学校に行くことができない子どもの〝自分のままでいられる居場所〟iibyは、目的を同じくする行政や自治体、他団体と協働し、活動を行っています。iibyを応援する「サポーター」は、ＹＭＣＡを支え、共に地域の課題に応えるワイズメンズクラブやボランティア、会員の方々です。私はその見返りを求めない姿に、人間本来の〝優しさ〟を見出します。

◇私たちの働きを考える時、襟を正し、胸を張って求められる業を行っていきたいと思います。

（廣）

総主事室から
本当の〝優しさ〟とは何か

戦で唯一戦場となった沖縄の悲惨さが明らかにされ、その事について論議がされています。沖縄には、残酷で胸が締め付けられるような、悲惨な体験をされ、その事に触れる気持ちにはなれない方が多くいらっしゃることを知っていた私は、友人と食事をしていた時、少しの驚きと大きな感激を抱き、記憶に刻み込みました。

◇現在、様々な理由で学校に行くことができない子どもの〝自分のままでいられる居場所〟iibyは、目的を同じくする行政や自治体、他団体と協働し、活動を行っています。iibyを応援する「サポーター」は、ＹＭＣＡを支え、共に地域の課題に応えるワイズメンズクラブやボランティア、会員の方々です。私はその見返りを求めない姿に、人間本来の〝優しさ〟を見出します。

◇私たちの働きを考える時、襟を正し、胸を張って求められる業を行っていきたいと思います。

（廣）

佐波正一氏、名誉会長に推挙
═2007年度賛助会年会═
永年継続17法人を感謝表彰

2007年度「東京ＹＭＣＡ賛助会年会・アドバイザー会」が7月19日に東陽町センターで行われ、賛助会員24法人、アドバイザー23人が来会された。

第1部は賛助会年会として、仲田達男財団法人理事長の開会挨拶と、橋本徹賛助会会長（ドイツ証券㈱取締役会長）が、多数の企業・団体による東京ＹＭＣＡ支援への感謝と、ボーダレス社会への貢献が地球市民の一員としての役割であると述べられ、より一層の積極的支援が必要であるとのメッセージが語られた。

新井廣和総主事から東京ＹＭＣＡの事業全般について説明があった。続いて、今年度の永年継続会員17法人に、感謝と共に表彰状と記念品が手渡された。

なお、年会席上で、佐波正一前会長（㈱東芝特別顧問）が名誉会長として推挙され、全会一致で承認された。

第2部は茅野徹郎常議員会議長による祈祷、加美山節学校法人理事長の乾杯で、会食と懇談が行われた。

報告では、現在、障がい者や高齢者に配慮された新浴室などを建設中の「山中湖センター施設整備事業」に関連して、『山中キャンプの歩み』がＤＶＤで紹介された。

また席上で、「新潟県中越沖地震」被災者のための緊急支援募金が呼びかけられ、参加者より2万8940円が寄せられた。（編）

〈永年継続表彰法人〉
□継続5年＝㈱栗田建築事務所、ネオス㈱、ＹＭサービス㈱
□継続10年＝㈱メディア・ボックス
□継続15年＝㈳東京消防設備保守協会
□継続25年＝㈱システムコミュニケーションズ
□継続30年＝イオン㈱、㈱東京保険サービス
□継続35年＝㈱伊勢丹、エーザイ㈱、㈱芝パークホテル、東京コカ・コーラボトリング㈱、野村ホールディングス㈱、㈱日立ハイテクノロジーズ、㈱日立プラントテクノロジー、丸紅㈱、三井物産㈱

■緊急支援募金■
新潟県中越沖地震

7月16日に発生した「新潟県中越沖地震」による被災者支援のため、緊急支援募金を行っています。お寄せいただいた募金は、今なお避難所生活を送られている住民の方々への生活支援、特に子どもたちの心のケアプログラムために用いる予定です。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

募金は…
東京ＹＭＣＡ各コミュニティーセンターの窓口または銀行振込で、「新潟県中越沖地震緊急支援募金」とご指定下さい。

振込先：みずほ銀行　神田支店（普）1123669
財団法人　東京キリスト教青年会
（お名前の前に「中越沖」とお入れ下さい。
お問合せ：会員部（☎03―3615―5568）

赤▽三角

「A君、いいね」4月、担任として初めてクラスの子どもたちと出会った時の最初のひと言である。▼私が教室に入ると子どもたちは、おしゃべりをしていた。よく見ると、静かにこちらを向いている子どもがいる。「A君、いいね」次の瞬間、何人かがおしゃべりをやめ、姿勢が変わり、私の方を見た。「B君もよくなったね」その言葉を聞いたほとんどの子どもが、おしゃべりをやめ、前を向いた。私はひと言も「静かにしなさい」とも、「こちらを向きなさい」とも言わなかったのに。▼今、学校は乱れていると言われている。だからといって、子どもは、大人が押さえれば押さえた分だけ反発してくる。それなら少し、子どもたちへの見方を変えてはどうだろうか。学校生活の中で、教師が子どもたち一人ひとりを、またはクラス全体のことを褒めている時間はどれくらいあるだろう。▼大人は、つい目につく子どもばかりを注意してしまう。悪い点は意識していなくてもすぐに目につくが、良い点は見方を変えないと、気がつかないことが多い。当たり前という概念にとらわれていては、良い点は見えにくくなってしまう。▼子どもたち一人ひとりの成長を考える時、「褒める」「押さえる」は教育の効果が期待でき、どちらも必要であるが、子どもたちと向き合うときは、常にその両方の目を持つことを心がけたいと思っている。

（会員　米田宏輔）